

【事例紹介】

国際交流 多文化共生 みんなで安心防災・防犯  
&フレンドシップピンポン（卓球）・フットサル大会  
-留学生等とともに歩む仏生山国際交流会-

International Exchange Event: Disaster Preparation(Evacuation& Drills)and Sports Day(Futsal,Table Tennis): Bussyozan International Exchange Society & International Students moving forward together!

仏生山国際交流会 代表 十河 瞳

SOGO Hitomi

(Bussyozan International Exchange Society Leader)

仏生山国際交流会 事務局長 野郷 光宏

NOGO Mitsuhiro

(Bussyozan International Exchange Executive Director)

キーワード：仏生山、多文化共生、防災、防犯、スポーツ、地域

I はじめに

1 団体について

私たち仏生山国際交流会は、香川県高松市で活動する団体です。会員は、中学生から高齢者まで、さまざまな仕事に従事していたり、定年を迎えボランティア活動として関わっていたり、一人ひとりが主体的に、その個性に応じた関わりをしています。活動目的は、海外技術研修員や留学生の皆さんが、日本での暮らしを安心して、お互いともに楽しく過ごせるように願い、カルチャーショックに陥ることもなく、その人、その国を認識しあい、思い合う心で接し、息の長い交流、支援、協力をする事です。

2 結成までの経緯について

香川県には、毎年、アジア・南米・アフリカ・オセアニアから海外技術研修員として、外国の方がたが来県されています。現在まで来県した研修員は、香川県での研修員制度がスタートした1972

年以来、のべ400人あまり（留学生として2度以上来県している人も多く存在している）となり、留学生の方がたも最近では県内のいろいろな大学などへ、年間を通して多くの方がたが来県されています。

1979年当時、高松市の琴電仏生山駅近くに、小さいですが、庶民的な食堂がありました。その近くにあった香川県農業試験場で学ぶ海外技術研修員の寮（2011年閉鎖）があり、その研修員たちが立ち寄るようになったのが交流のきっかけです。その食堂を経営していたのが代表の十河 瞳です。文化の違いに戸惑う研修員たちに「近所のおばさん」として手を差し延べ、その輪を広げてきました。

会の結成は、1985年4月。発足時、会員数は15人程度でした。慣れない日本での暮らしで精神的にも重い負担を抱える研修員たちの不安感の解消が一番と思いました。日常的なアドバイスから、地域の伝統行事などへの招待、出迎え、見送りなど……。誰でもできそうで、なかなかできない「よき隣人」としての活動を続けています。最近では留学生たちにも対象を広げ、リサイクルも兼ねて私費で学ぶ外国人に生活用品を支援する活動も行っています。徐々に、国際交流に関心がある人たちとのつながりが深まり、支援者が増え、来県されている研修員や留学生などに「日本の文化や習慣を理解してもらいたい」との思いが深まり、活動を重ね、交流団体として現在に至っています。今年で活動開始から35年を迎えました。団体名は、海外技術研修員センターがあり、中心になって活動している多くの会員の居住地でもあり、また多くの町民が隣人の一人として関わっている地名の「仏生山」から命名しました。「それぞれが得意の分野で、日常生活のできる範囲で」を会のモットーとして、草の根活動を展開しています。

### 3 現在の活動状況について

会員数も現在は、約70人になりました。交流の範囲も広がり、研修員や留学生、さらには、外国人専門学校生へと支援が広がっています。どんどん交流が進行していくなか、香川県に来県されているのだから、もっと日本文化を味わってもらいたいと考え、日本の伝統文化である茶道、華道、書道、陶芸、寺社仏閣訪問、夏・秋祭りへの参加などを体験してもらうことにしました。さらに、ある会員から、日本の学校のようにも知ってもらうために学校訪問をやってみようという提案があり、研修員や留学生たちが1991年に仏生山小学校を訪問し、子どもたちと交流を深めました。そして、もっと交流を深めることができないかと考え、「国際親善ミニスポーツ大会」として、バドミントン、バレーボール、卓球などのスポーツで日本人と外国人との交流を深め、親睦を図ろうと始まり、「国際交流親善スポーツ大会」がスタートしました。

2011年3月の東日本大震災の発災があり、地震等非常変災の多発を受けて、このスポーツ大会と防災教室の合同事業は2013年からずっと継続して実施しています。毎年、外国人約100人を

含め200人規模の大会を実施しています。

公益財団法人中島記念国際交流財団から、2017年度から今年度まで4年間継続して助成をしていただき、感謝しています。特に、今年、2020年は、仏生山国際交流会結成35年、国際交流スポーツ大会は第30回という記念すべき年になります。

## II 活動概要

### 1 組織

代表 十河 瞳

副代表 飯間 清隆（スポーツ大会実行委員長）

幹事・事務局長 野郷 光宏

庶務 藤田 和毅

会計 明石 美代子

監査 山田 秀夫

会員総数 70名（2020年4月現在）中学生から高齢者まで幅広い年齢層です。

### 2 年間活動計画予定（2020年度）

|     |   |
|-----|---|
| 4月  | 事業検討会・花見交流・香川大学新入留学生歓迎会   |
| 5月  | スプリングミーティング<br>(年間計画、防災・防犯教室&スポーツ大会打ち合わせ会・企画運営担当留学生等参加)               |
| 6月  | 香川県海外技術研修員来県、出迎え  |
| 7月  | 香川県海外技術研修員、初顔合わせ  |
|     | サマーミーティング（防災・防犯教室&スポーツ大会打ち合わせ会）                                       |
|     | 歓迎会（香川県技術研修員）・盆踊り練習   |
| 8月  | 仏生山門前まつり・留学生との文化交流（浴衣着付け・茶道・書道）                                       |
|     | 実行委員会打ち合わせ会（ポスター・資料作成・運営について協議）                                       |
| 9月  | 参加者募集（各関係団体・後援団体への後援依頼、個人への案内状・開催要項の送付）                               |
| 10月 | ポスター掲示・広報（アイパル香川、各コミュニティセンター、各大学、専門学校、国際交流イベント会場など）                   |
|     | オータムミーティング（参加者名簿・競技関係対戦組み合わせ表作成、実行委員の運営について協議・企画運営担当留学生等参加・防災食（昼食）確認） |
|     | 国際フェスタ参加・香川大学新入留学生との交歓会   |

|             |  |
|-------------|--|
|             | 防災教室指導担当日本赤十字社香川県支部との打ち合わせ<br>防犯教室指導担当香川県警察高松南警察署との打ち合わせ   |
| 11月         | 実行委員打ち合わせ（役割分担・対戦組み合わせ表確認）<br>22日（日） ともに生きよう みんなで安心防災・防犯&第30回国際交流スポーツ大会<br>開催当日 準備・運営・防災食（昼食）支援・片づけ・送迎・企画運営担当留学生参加 |
| 2021年<br>1月 | 新年交歓会  |
| 2月          | ウインターミーティング（実行委員会反省・次年度に向けて・留学生等参加）  |
| 3月          | 香川大学留学生「さよなら交歓会」   |

（加えて通年の活動）

- ・ 四季折々の行事などに会員の各家庭へ招待、ホームステイ
- ・ 私費留学生、研修生への生活用品の支援
- ・ 会員による日本の伝統文化（生け花・茶道・舞踊・書道・日本料理）、日本語の指導
- ・ 小中学生との多文化交流・学校訪問
- ・ 帰国者への各国訪問交流
- ・ 県内国際交流団体・民間団体との連携と交流
- ・ 香川県海外技術研修・留学生友好会との交流（中国北京・陝西省）



仏生山公園花見交流会

3 これまでに交流のあった留学生からのメッセージ（2006年6月発刊「結成20周年記念誌」より引用）

—「故郷と日本への思い」 元香川留学生学友会会長 李 海（中国）

以前、中国にいるとき、私は外国人留学生にふるさとを案内しました。今日本に来て、わたしの身分は外国人留学生になりました。この立場の転換によって、国際交流における当事者の心境を理解することができました。来日当初はただひたすら勉強するつもりでありましたが、一人では生きていきません。他人の支援、他人との交流が切り捨てられないことを実感しました。時に祖国を離れ、長年日本で勉強していると、失落を感じることも少なくありません。普段から見ているごく普通の生活にしても、実は生活というものの、もっとも真実の一面を教えてください。

帰国についても、うれしいと感じると同時に悲しみを味わいました。今朝空港で別れて、夕暮れは日本に帰って、12平方の暗い部屋、さびしい私と話せないトランク。そのまま立って動かず、涙が

こぼれました。

このような一人の旅のなかで、身近な国際交流と出会いました。一人ひとりとの出会いのなかでみんなの元気な姿を見ることは、時々落ち込む私に勇気をくれました。

現在、このようなふるさとと日本のバランスがだんだん取れてきました。日本にも私のことを気にくださる人がいてくださいます。日本に戻ってきても一人ではありません。これは以心伝心の答えだと信じています。

—「私の故郷、高松」元高松高専（現香川高専）留学生ダン・ハイトウアン（ベトナム）

10月の仙台は肌寒い季節となり、すっかり秋らしい日々が続いています。高松を離れ、2年半も経ちましたが、今でも仏生山国際交流会の思い出は鮮明に覚えています。ベトナム人一人しかいない高松高専に来たとき、心細く、寂しがり屋の私をいろいろなイベントに誘ってくれたのは仏生山国際交流会のみなさんでした。県内研究生との交流、スポーツ大会、仏生山のお祭り、語りきれないほどさまざまなイベントに参加し、友だちがたくさんできました。また、交流会の皆さんは私に対して自分の子どものように接してくれて、日本の「家族」もできました。そのお陰で、最初の不安や寂しさなどが残るところか、楽しい思い出がいっぱいある3年間を過ごしました。

日本には「住めば都」という諺がありますが、ベトナムでは「離れた土地に心がある」といわれています。私にとって都になった香川県を離れたことはすごく寂しかったです。いつかその故郷に戻ることを希望しています。



香川県からの感謝状



文部科学大臣表彰状



香川大学からの感謝状

### Ⅲ 防災・防犯教室&スポーツ大会について

#### 1 事業の目的

香川県民と香川県在住の留学生等が防災・防犯教室やスポーツ交流を通して、非常変災への自助・

互助・共助について、地域との相互理解を学び、絆を深めることを目的に交流と多文化共生社会の実現をめざして実施しました。防災・防犯教室では、非常変災時の対応について学んだり、非常食（防災食）づくり（外国の料理）を体験します。昼食に外国の料理を取り入れているのは、避難所で外国人と日本人が共生して生活することもあるので、誰でも食べられる簡易な料理を通して交流を深めることができると考えています。スポーツ大会では、留学生や研修員等に人気のあるフットサルやピンポン（卓球）を実施して、親睦を深めます。

## 2 2019年度実施報告「国際交流 多文化共生 みんなで安心防災・防犯&フレンドシップ ピンポン（卓球）・フットサル大会 2019」

この事業は公益財団法人中島記念国際交流財団と公益財団法人香川県国際交流協会から助成をいただき、大変感謝しています。充実した活動になりました。

- (1) 開催日時 2019年11月24日（日）午前9時～午後4時
- (2) 開催場所 香川県高松市香南体育館
- (3) 参加者延べ数 外国人留学生72名、その他外国人22名、日本人学生18名、地域住民33名、スタッフ12名、大学関係者2名、来場者等8名、合計167名
- (4) 参加留学生等の出身国・地域 中国・韓国・南アフリカ・ベトナム・インドネシア・台湾・タイ・イギリス・カナダ・フランス・トルコ・インド・キューバ・ブルネイ・マラウイ・セネガル・スペイン・ミャンマー 計18か国
  - ・参加留学生の日本国内の所属学校 香川大学・高松大学・学校法人穴吹学園
- (5) 主催 仏生山国際交流会
- (6) 運営・企画・協力（留学生有志） 香川大学・香川県中国留学生学友会・香川高等専門学校・学校法人穴吹学園専門学校穴吹ビジネスカレッジ日本語学科・在インドネシア留学生会・香川華僑華人会・香川フットサル Lucha Brillo
- (7) 助成団体 公益財団法人中島記念国際交流財団・公益財団法人香川県国際交流協会
- (8) 後援団体 高松市・公益財団法人香川県国際交流協会・公益財団法人高松市国際交流協会  
日本赤十字社香川県支部
- (9) 活動内容
  - (午前の部) ①開会式・実行委員長あいさつ・ご来賓あいさつ・協力団体紹介・事務連絡
  - ②「国際交流 多文化共生 みんなで安心防災・防犯教室」
    - 防災教室：指導等協力団体：日本赤十字社香川県支部
    - 地震や台風等の非常変災での緊急避難において救急救命法である簡易担架づくりや救急手当の方法を体験しました。

防犯教室：指導等協力団体：香川県警察高松南警察署

2019年(令和元年)11月25日(月曜日) 地域総合 (16)

**防災訓練、スポーツで親睦**  
外国人留学生ら150人

県内で暮らす外国人留学生が参加した、日赤高松支部の生や技術研修生らを対象にした防災訓練とスポーツのイベントが24日、高松市香南町の市香南体育館であった。参加者は災害時に役立つ知識を学び、防災意識を高めるとともに、スポーツで汗を流して親睦を深めた。

仏生山国際交流協会が、備えの大切さや助け合いの気持ちを持ち育てる毎年開催の今回は中国やドイツ、ミャンマーなど15カ国約90人の外国人を含む約150人が参加した。

セネガル出身の留学生サ・イ・アババカ・カリファ

毛布を使って負傷者を搬送する方法を学ぶ外国人＝高松市香南町、市香南体育館

「さん(30)は「来日して間もない頃に地震を体験し、どう対応したらいいのかわからなかった。災害への備えを身に付けたい」と話した。このほか、参加者はフットサルと卓球の競技に分かれて試合を行い、声援が飛び交う中、白熱した戦いを繰り広げた。

非常変災時や毎日の生活の中での危険な犯罪や自転車による交通事故への防止について講習を受けました。非常変災時における多文化共生の社会づくりをめざすことにとっても役立ち、安心・安全な生活づくりに繋がっていくことになりました。

(防災食＝昼食) インドネシアのハラル料理「ソトアヤム」を参加者全員で会食しました。ご飯は、災害時を想定し、お湯で温める非常食用のお米を主食にして、副食として「ソトアヤム」を食べました。ハラル料理のため誰にでも食べやすいもので、甘くおいしく大好評でした。

新聞掲載記事

インドネシア料理ソトアヤム

材料：

|                    |          |
|--------------------|----------|
| 2人前                |          |
| 鶏肉                 | : 150 g  |
| 長ネギ                | : 小1本    |
| もやし                | : 小1     |
| キャベツ               | : 小1     |
| にんじん               | : 2個     |
| にんにく、しょうが          | : 各1かけ   |
| 卵                  | : 1個     |
| 水                  | : カップ3   |
| (調味ペースト) >すべてすりつぶす |          |
| 顆粒コンソメ             | : 小さじ2   |
| ターメリック             | : 小さじ1/2 |
| 塩                  | : 小さじ1   |
| こしょう               | : 少々     |
| サラダ油               | : 大さじ1   |



作り方：

1. 鶏ささみ肉はスジを取ります。もやしは根を切り、キャベツはひと口大のざく切りにし。ゆで卵は殻をむき、縦半分に切ります。
2. 調味ペーストを作る。ペースト材料+水 100cc をミキサーでなめらかなペースト状にする。
3. 大きめの鍋に油大さじ4を入れ、調味ペーストを香りがでるまで炒める。
4. の鍋に、もやしとキャベツを加えて煮込み、割いた鶏肉を加え、鶏がらスープの素、塩、コシヨ、ターメリックを加えます。
5. 4器に3を盛り、にんじんとゆで卵、お好みで香菜をのせます。

ハラル料理「ソトアヤム」レシピ

(午後の部)「フレンドシップ ピンポン(卓球)・フットサル大会」

- ①ウォーミングアップ リズム体操による準備運動を実施。
- ②選手宣誓(留学生代表)
- ③選択競技・ピンポン(卓球)とフットサルの2種目に分かれて活動。

2種目とも挑戦する人もいたり、どちらの種目も選手も応援者も大きな声援があがったりするなど、大変盛りあがりました。優勝は、ピンポン(卓球)の部は、劉恒・松本清チーム、フットサルの部は穴吹専門学校チームでありました。

## ④閉会式・成績発表・表彰式・記念品・生活用品等贈呈・代表あいさつ

## (10) 外国人参加者からの感想

—アゼベード ウェスクリー (ブラジル)

同じような防災訓練に何度も参加したことがあったが、実際に体験する事ができて楽しかったです。また、初めての卓球大会で3位になれてうれしかったです。また、参加したいです。

—張 紅占 (中国)

防災訓練は非常に有意義でとても勉強になりました。スポーツ大会では、ブラジル研修員とペアを組んで参加し、3位になりました。久しぶりの達成感で、人生初のピンポンの試合で(しかも日本で)感じる事ができました。このようなイベントがあつてよかったです。



スポーツ大会 (卓球)



スポーツ大会 (フットサル)



全体集合写真

## IV 成果と今後の課題について

長年継続して実施している国際交流スポーツ大会だけでなく、現在の日本における非常変災多発の状況や今後の地震発生確率の高さを加味し、救急救命救助法や担架の使用訓練などの講習、昼食には外国人が調理する料理を会食する活動などを同時に行うことで、より国際交流が深まり、多文化共生の社会へとつながっていくこととなります。また、防災・減災だけでなく、防犯や交通安全の講習を受けることで、これからの日本での生活をより充実させ、外国人も日本人も親密になり、共生と自助・



互助・近助・共助・公助への社会に、グローバルな社会の実現につながっていくと思います。

国際交流スポーツ大会については、留学生等からの要望が多いフットサル・卓球（ピンポン）の2種目に取り組みました。熱戦ばかりで、選手も応援団もとても元気いっぱいでありました。今後は、女性の方も参加しやすい種目（バレーボールなど）も望まれています。

今年は、2020年11月22日（日）午前9時～午後4時に、高松市香南体育館を会場に、「ともに生きよう みんなで安心防災・防犯&第30回国際交流スポーツ大会2020」と題して、事業を開催する予定で、新型コロナウイルス感染症の拡大・再流行が懸念されるなかではありますが開催にむけて会員や留学生、研修生等を交えてのミーティングを開き、運営について協議を進めています。すでに、広報用のポスターもできあがりしました。午前中には、地震や台風など非常変災にむけて、防災や防犯の自助・互助・近助・共助・公助への備えをするための知識習得、実地訓練を行い、非常食は避難所等での外国人との共同生活も想定されることから、今年もインドネシアのハラル料理を参加者全員で会食します。午後からは、国際交流スポーツ大会として、第30回を記念して、まず、参加者全員で日本独特のスポーツである綱引きと玉入れで親睦を深め、その後、留学生たちから大変好評のフットサルやピンポン（卓球）の競技を実施します。日本人同士、外国人同士ばかりでなく、日本人と外国人との合同チームも多くあり、親睦・交流が深まり、参加予定人数は、外国人（留学生・研修生、在県の方）100名、日本人80名、主催関係者40名の合計220名を見込み、盛大な事業にしたいと考えています。→**新型コロナウイルスの影響により、イベントの開催は中止となりました。**

## V おわりに

当団体は、発足当時の人が継続して永く関わっているため、当初は若かったですが、年齢を重ねベテランとなり、現在に至っています。今は、会員だけでなく、事業ごとに、広くボランティアを募り、実施しています。しかし、残念ながら新規加入会員が少なく、今後は広くPRして会員募集を進めなければいけないと思います。特に、若い人たち、学生さんたちの加入を促進していかないと団体自体の存続が危ぶまれます。

また、団体の財源については、個人での持ち出しやチャリティーなどに参加し収益をあげるなどでまかなっていますが、限界があります。この事業のように大きなイベントについては、その都度、県や市の関係機関などに申請して助成金をいただいています。財政基盤が脆弱で、全く財源の繰越はなく、財源不足が運営上の課題です。

国の施策でも、国際交流の重要性、インバウンドでの収入増を図りたいと意義づけられていることから、多くの外国人の来日が期待されています。香川県でも、研修員の受け入れは減少しつつ、一方で、留学生は増加しています。当団体は、今後も県や大学等と協力し、研修員や留学生をはじめ県内に在住の外国人の方がたとの交流をより深めていきたいと思っています。

2020年5月、日本における今般の新型コロナウイルス感染拡大の状況を憂慮して、23年前、高松大学へ中国陝西省からの留学生であった張凡さんから、仏生山国際交流会に対して、感染防止のためのマスクが1,000枚届きました。私たちの当時の交流や支援活動の成果と感じています。公益財団法人香川県国際交流協会などにも寄贈したり、会員に配付し、有効に活用しました。

—張凡（元海外技術研修員）さんからのメッセージ

私は、1997年から2年間留学研修をして、人生の中で一番素晴らしい日々を過ごしました。仏生山国際交流会など多くの人びとにお世話になりました。今回、香川県の方がたに感謝の意を表すために高松に関係する留学生の後輩たちと一緒にマスクを寄付しました。マスクは数が限られていますが、私たちの恩返しとして差し上げます。最後に、皆様のご無事であることをお祈りします。新型コロナウイルスの流行が早く終わることを期待して、一日も早くお会いしましょう。

## 憶高松

長安東望思舊處，  
明月清輝照香川。  
陽春柳絮隨風至，  
風載我情入高松。

張凡 庚子三月於長安

張凡さんからの漢詩「憶高松」

このようなふれあい交流が続く国際交流ボランティア活動は大きな財産です。これからも、無理なく自分たちの特技を活かして、できることをできる範囲で取り組む普段着の交流を温かく、息永く続けていく決意を強くしました。ともに歩む仏生山国際交流会。

# 「仏生山国際交流会」

Busshozan International Exchange Society.



## ● 発足のきっかけ

香川県には毎年、アジア・中国・南米諸国などから海外技術研修員として、外国の方々が来県されています。その研修員の寮が高松市仏生山町に在り、慣れない異国での日常生活の問題など相談を受けているうちに、国際交流に関心を持つ人達とのつながりが深まり、研修員や来県されている留学生達に「日本の文化や習慣を理解してもらいたい！」との思いから本格的な活動を行うようになりました。

※ 2011年(平成23年) 研修員センター(寮) 廃止

## ● 目的

研修員・留学生などが日本での暮らしに安心して、ともに楽しく過ごせるようにとの願いから、お互いの国々のカルチャーショックにも陥ることなく、その人、その国を認識しあい、思いやりの心で息の長い交流、協力をする。

## ● 正式発足

年月 1985年4月(1979年より交流活動開始)  
 会員数 75名(2015年5月)  
 所在地 高松市仏生山町甲1646-2  
 電話 (087) 889-1419  
 FAX (087) 889-1446  
 代表 十河 瞳(そごうひとみ)

## ● 月別にどんな活動をしているの？

1月 新年交流会  
 3月 香川大学留学生「さよなら交歓会」  
 4月 事業検討会・花見交流・新入留学生歓迎会



6月 香川県海外技術研修員来県、出迎え  
 7月 香川県海外技術研修員、初顔合わせ  
 7月 歓迎会(香川県海外技術研修員)・盆踊り練習  
 8月 仏生山門前まつり  
 留学生との文化交流(浴衣・お茶・書道)  
 10月 国際フェスタ・新入留学生との交歓会(大学)



11月 国際スポーツ大会・防災体験  
 12月 反省会

## ● 加えて通年の活動!!

- ・四季折々の行事などに各家庭へ招待、ホームステイ
- ・私費留学生、研修生への生活用品の支援
- ・会員による 伝統的日本文化(生け花・茶道・舞踊料理・日本語)の指導
- ・小中学生との異文化交流など
- ・帰国者への各国訪問交流、また県内海外交流団体、民間団体との連携と交流
- ・香川県海外技術研修員、留学生友好会との交流  
中国(北京・陝西省)

## ● わたしも国際交流したいが、参加できる？

年齢、性別、国籍、なーんにも問いません。  
 もちろん会費も不要。  
 一つだけ必要なのは「ボランティアの心！」  
 仏生山国際交流会はこの気持ちをいつも持って行動しています。  
 これさえあれば、どなたでも大歓迎です。  
 個々の発想、ご意見を会の中で生かして下さい。

★気軽にお問い合わせ下さい。

電話 090-7620-5194  
 090-4505-2703

「(公財)中島記念国際交流財団助成」(独)日本学生支援機構留学生地域交流事業

# INTERNATIONAL FRIENDSHIP SPORTS & BO-SAI EXPERIENCE

ともに生きよう みんなで安心防災・防犯  
&  
第30回国際交流スポーツ大会 2020

日時 2020年(令和2年) **11月22日(日) 9:00~16:00**

場所 **高松市香南体育館(087-879-3136)**

種目 **防災・防犯教室(参加者全員)**  
**スポーツ大会** ピンポン(卓球)(ダブルス)  
フットサル体験&ゲーム・玉入れ・綱引き  
(個人・チームどちらもOK)

参加者 **子どもも大人もどなたでもOK**  
参加費 **日本人1人500円(当日集金) 外国人は無料**  
(昼食=防災食(インドネシアのハラール料理)付き)

申込先(問合わせ) **TEL087-889-1419 FAX087-889-1446**  
**TEL087-885-1673 FAX087-887-8490**  
**e-mail 889bkk@gmail.com**

主催●**仏生山国際交流会(結成35周年)**  
後援●高松市・(公財)香川県国際交流協会・(公財)高松市国際交流協会・日本赤十字社香川県支部  
助成●(公財)中島記念国際交流財団・(公財)香川県国際交流協会・(公財)高松市国際交流協会  
協力●高松南警察署

→新型コロナウイルスの影響により、イベントの開催は中止となりました。